

(県協働部署用) 協働事業評価・報告書

事業名	広域大規模災害に備えた平常時からの行政、社協、NPO 等の連携体制構築
団体名	災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ
県協働部署名	地域福祉課
事業期間	令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日

1 個別事業ごとの実施結果

事業 1	情報共有会議の枠組みづくりと県内の多様な主体とのネットワーク形成事業
(1)実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期に、災害時要配慮者支援について学ぶオンライン勉強会を開催し、74 名の参加があった。参加者アンケートでは、8 割以上が勉強会は有効であったと回答した。また、災害時にできる支援活動について、33 件の記入があった。 ・2 か月に一度の連絡会議、12 月の連携体制構築訓練 (14 団体 48 名参加)、2 月のかながわフォーラム (32 名参加) には、地域福祉課職員が出席し、意見交換、情報共有等を行った。行政、社協、民間支援団体における「顔の見える関係」づくりは、進めることができた。 ・本協働事業の成果等について、かながわ災害福祉広域支援ネットワーク構成団体や市町村等への情報提供は、できなかったが、県内 N P O 法人を対象とした「災害への備えと支援活動に関する実態調査報告書」をまとめることができた。
(2)目標の達成状況	<p>ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。 (74%) ※1 年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。</p> <p>イ) 上記ア) のように判断した理由を記入してください。 3 つの事業目標のうち 1 つ目は進んだが、残り 2 つの後段部分「体制構築の動き」「平時からの情報共有体制」の進捗が十分に進んでいないため、上記アの判断とした。</p> <p>ウ) この事業の課題と対応策 事業実施団体 (みんな) が、年度当初に情報共有会議事務局を担う方向性が示されたこと、中間支援組織が有事に何ができるのかの報告書がまとまったことは、評価できる。事務局業務の洗い出し、平時からの情報共有体制を作ることが課題である。また、協働 (連携体制構築) 訓練から見えた課題を抽出し、解決することも必要である。</p>

(注) 個別事業が 2 つ以上ある場合は、上の表を複写して記入してください。

2 協働事業を継続する上での課題と対応策

災害時の要配慮者支援について、民間支援団体にどのような役割を担っていただくのか判然としないことが課題である。災害時に、民間支援団体が可能な支援内容を明確にした上で、県、県社協、協働事業実施団体 (みんな) の役割を整理し、3 者連携体制を構築する必要がある。

また、事業の柱である「災害時情報共有会議」の枠組みや運営体制のあり方の協議は進んでいるが、事業最終年度に向けて、会議体の形づくりが課題であるため、より具体的な検討が必要である。

3 負担金事業終了後の貴課の考え方

災害時における県の福祉支援体制については、福祉関係団体と連携したかながわ災害福祉広域支援ネットワークによる支援が中心になると考えるが、併せて機動力がある民間支援団体による多様な支援と連携した体制が確立・継続されることを期待する。

4 協働事業の評価 (はい・いいえ・どちらともいえない、に該当するものを残してください)

1 協働事業の成果		
(1)	協働することで、単独で事業を行うよりも効果やメリットがありましたか。	はい
(2)	事業の受益者の満足を得ることができたと思いますか。	どちらともいえない
(3)	協働事業の成果だと思ふことがあれば記入してください。 大規模災害時に、行政、社協、民間の中間支援組織が連携して支援する必要性が、オンライン勉強会に参加した民間の中間支援組織の方々と共有できたこと。	
2 協働事業の協議の状況		
<企画段階>		
(1)	事業計画や目標の立て方について、県と団体とは事前の調整や協議を十分行いましたか。	はい
(2)	県と団体とは対等な立場で協議を行いましたか。	はい
<実施段階>		
(3)	意思の疎通を円滑にし、事業の進捗状況を確認するため、県と団体とは節目ごとにメールや電話でのやりとりや定期的な協議を行いましたか。	はい
(4)	相手方のフィールド（団体の事務所・活動現場）に足を運び、団体の置かれている状況や立場についての理解に努めましたか。	はい
(5)	必要な情報を団体と共有することができましたか。	はい
(6)	協議についての課題があると思われる場合は、記入してください。	

3 協働事業の役割分担		
(1)	団体との役割分担は適切でしたか。	はい
(2)	協働事業の実施にあたって、あらかじめ定められた役割を果たすことができましたか。	どちらともいえない
(3)	役割分担についての課題があると思われる場合は、記入してください。	
4 協働事業全体を通しての評価		
(1)	全体として、県と団体とは対等な立場で協働ができましたか。	はい
(2)	この事業の課題を解決する上で、協働という手法は有効だと思いましたか。	はい
(3)	協働事業全体を通じて気づいた点があれば記入してください。	
5 社会的認知の獲得		
(1)	取り組んでいる事業や成果について社会的認知が広がったと思いますか。	はい
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、どういう点で社会的認知が広がったと思うか理由を記入してください。 当課が担当したオンライン勉強会について、事業実施団体のホームページに掲載し、そこから勉強会参加に至ったケースがあった。	
6 新たなネットワークの獲得		
(1)	この事業を実施する上で新たなネットワークをつくる（広げる）必要性がありましたか。	はい
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）努力を団体と共に行いましたか。	はい
(3)	(2)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）ことができましたか。	いいえ
7 行政の施策等への影響		
(1)	協働事業の実施により、県職員のボランティア団体等に対する認識の変化や行政の施策等の改善のヒントにつながるようなことがありましたか。	どちらともいえない
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、具体的に変化や影響があったと思われることがあれば記入してください。	
8 費用対効果		
(1)	事業の効果から見て、要したコストは適切だと思いましたか。	はい
(2)	(1)で「いいえ」を選んだ場合、その理由と、今後の対応策を記入してください。	